

高崎高校同窓会報

1999

第33号

平成11年11月30日

特集／百年史
人物史編 「翠巒の群像」こぼれ話





「インターハイ予選」で優勝したバスケット部。



GRAPH
FILE

表紙写真：校門を入った風景2点 〈上〉戦前の「御真影奉安殿」〈下〉指月庭

高高同窓会報 No.33 目次

あいさつ

未来よ、燃え輝け

「あいさつ」

「喝」

雄感・躍ぐ石も緑の端

通信教育制の今、むかし

特別寄稿

旧制高中第四十回卒業の同窓会

高高（高中）の思い出

「高崎高校時代の思い出」

論壇

「涙の行方」

特集●百年史人物史編「聖徳の群像」こぼれ話

「白球に賭けた青春」取材ノートから

●刊行案内「高崎高校百年史」

モデルは奥さんですね！

●こんな同窓生を知っていますか？

同窓会だより

聖徳体育会の活動について

高高バスケット部七十年略史

高崎高等学校吹奏楽部創部六〇周年記念演奏会によせて

四六期信越通学組

旧講堂の鬼瓦を保存

バラ苗木の購入を援助

聖徳育英会財団法人設立十五周年を迎えて

●聖徳セミナーについて

●表彰・叙勲者紹介

●卒業生の作品紹介⑤

●聖徳文庫

会員名簿について

母校だより

各部の活躍

各部の活動

第五十三回定期戦

最近の進学状況

人事異動

同窓会会計報告

新年総会のご案内

維持会費の納入について

編集後記

同窓会長 横田 英一

学校長 榎井 直紀

同窓会副会長 田中 順

同窓会副会長 大木 紀元

通信制教頭 井出 存祐

植原 兵

八木 資親

長坂 資夫

剣持 宏

田端 穰

武井 民部

山口 正敏

林 進一

安藤 直典

石澤 信久

田中 順

本部幹事会



未来よ、 燦と輝け

同窓会長 横田 英一

平成十一年度は、中秋を過ぎても夏の余韻の暑さは衰えず、季節感が少しずつずれてしまいうような天候が続きました。しかしながら、セルリアンブルーに輝く遠く榛名山の山並みにも秋の空に高い雲がかり、稲穂の頭を垂れる姿が実り多き秋の確実に訪れていることを感じさせてくれました。この会報が皆様のお手元に届くころには例年通り雪の便りも聞かれる頃だと思いますが、同窓の諸兄におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

いつものことながら、今年も各界各方面におきまして同窓諸兄のご活躍を耳にする機会も多くございましたが、ご同慶の至りでございます。また、母校高崎高校でも、高校総体での総合四位、バスケットボールの総体ならびにインターハイ予選での優勝、囲碁選手権県大会優勝、百人一首県大会優勝など、文武両面にわたって後輩たちが活躍しているようです。これらの輝かしい成果は、生徒一人一人の努力の結晶であるのもちろんのことですが、限られた条件の中で精一杯生徒の指導にあたられておられる先生方のご苦勞によるものでもあります。この場を

お借りしまして、母校の諸先生方には深く感謝申し上げます。さて、一九〇〇年代も残すところ後わずかになりました。今年と来年とで何も大きく変わるわけではございませんが、この一九〇〇年代はそのまま高崎高校の歴史であると言えましょう。一八九七年（明治三〇年）に群馬県尋常中学校の群馬分校として誕生し、一九〇〇年に群馬県高崎中学校として独立しました。一九九七年には高崎高校創立百周年を盛大に祝しましたが、二〇〇〇年はまさに高崎中学校が独立して百周年という事になるのでしょうか。いま手元にある「高崎高校百年史」を眺めておりますと、この一冊の分厚い本の一ページ一ページに数え切れないほどの出来事が刻まれていることに新たな感動を覚えます。かく言う私は、一九四五年（昭和二十年）に高崎中学校に入学し、戦後の学制改革の影響もございまして六年間を乗附の地にお世話になりましたが、やはり高崎中学校で過ごした日々は、現在の自分の依って立つ所の一部としてあるような気がいたします。そして、この間、各界各方面で大活躍

した幾多の先輩を世に送り、同窓生も二万数千人に達しております。まさに、この二〇世紀に高崎中学校・高崎高校はその存在を確たるものになしえたと言えるのではないのでしょうか。

世の中は、まさに苛烈で先行きの不安がぬぐい去れない時代ではありますが、高崎高校が二十一世紀に向けてさらなる飛躍をされることを期待しております。そのためにも我々同窓生も今後一層結束を固めて母校の発展に寄与していきたいと思ひます。

草野心平先生の作詞された現在の高崎高校校歌に「高崎 我らが母校 未来よ 燦と輝け」という一節がございますが、この言葉通りに高崎高校が二十一世紀に向けて燦然と輝いていきますよう心から願う次第であります。

まことに言葉ととのいませませんが、同窓諸兄のますますのご発展とご健康をご祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。

（群馬トヨタ自動車㈱代表取締役社長 50期）



ごあいさつ

学校長 桜井 直紀

会報第三十三号の発刊を心からお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には平素から母校の充実・発展に多大なご支援・ご協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。おかげさまで持ちまして、本校の様々な教育活動は順調に行われており、生徒は勉強や部活動に熱心に取り組み、多くの成果を上げています。(生徒の活動の成果は本誌に別途掲載されていきますので省略します。)

さて、多くの課題を抱える学校教育ですが、これらの改善を目指して、学校教育の大纲を定めている学習指導要領が改訂されました。制度面からは学校週五日制の導入、内容面からは「生きる力の育成」をメインとして学校教育を変えようとするものです。本校としてもこれらに対応するとともに、十八歳人口の減少、大学改革の動向などに留意し、どのような教育をどのように進めるのがよいのかを検討することとしていきます。

このような状況を踏まえつつ、学力の向上はもとよりですが、二年生全員による企業・研究所訪問の導入、一年生の修学旅行形態の見直しなどを進め、自らが考え・行動出来る人間の育成に向けての取り組みに着手しました。教育はややもすると、言葉

が先行し、内容が伴わない場合があります。今回の改訂でも「生きる力の育成」の用語が目につきますが、大切なのは言葉ではなく、具体的な対応であると考えます。その際には、変わってくるであろう社会の方向を見据えつつ、将来有為な社会人として活躍できるようにする上で、現在の高校生活をどのように送らせたらよいのかを考え、実践することと考えています。

次に、前回の会誌にも関係しますが、人間として生きていく上での基本をしっかりと理解でき、実践できる高校生であり、社会人になって欲しいと考えます。この点について、本校では以前から「当たり前のこと」が当たり前に出来る人間となること」を掲げています。このことは社会が一定の秩序を保つ上で不可欠な要素ですし、このような言動こそが知識や技術を活かす基礎であり、さらには自らの、また社会生活における自由の拡大にも繋がるものと考えます。先輩方からみれば最近の生徒の言動には何かと気になる点もありまじうが、学校としては「当たり前」のことが・・・が生徒の将来において最も大切なものであるとして、今後とも力を入れていくこととしています。



「喝」

同窓会副会長 田中 順

こんどは、自分自身についての「かつ」である。ご指導とご協力をいただいて、美事に母校百周年事業をなしたことは祝賀至極のことと、厚く御礼申し上げます。

学校にお邪魔することも、以前に較べて少なくなつて、何か拍子抜けしてしまつたことも事実であり、もうそろそろ年貢の納めどきかなとも思つたが、日々強烈に新陳代謝をする高生等の成長ぶりを見聞すると、脱力感を覚える暇はない。まだまだやり足りないことが山積している。

その一つとして、私の責任でもあるが、まだ積み残している学校史の販路促進のことである。今年の入学式で同窓会祝辞を述べさせていただいた。大半は学校史の紹介に終つた。言葉足らずであつたが爆然と輝くわが母校の事蹟を、誇らしく語り、PTA諸氏にもPRした。入学する後輩には、有料ではあるが、何よりの贈り物であると確信している。それには、勿論、学校長はじめ、母校の教職員のご協力があればこそのことである。学校史の補遺となるが、同窓会報にも、本部幹事長・編集担当者の肝入りで、数年間資料を連載していく企画があることは、有難ううれしいことである。義士外伝ならぬ聖徳群像外伝出版にもつながることと期待したい。

今年は任期三年の最終年でもある。二つめは同窓会と表裏一体である財団法人聖徳育英会事業の現今の衰退ぶりである。ペイオフと聞き慣れない語句に席捲されている経済環境では、いかんせん。雪隠詰めである。

心ある同窓生からの素晴らしいご寄付は、まさしく千天の慈雨である。以前、財団法人聖徳育英会理事者の会費徴収について提案したが否認されたこともあつたが、現状認識から環境変化に伴い、大鉦を振るう時期になつてしまつた。乱暴な私案であるが、一例を挙げれば、任期三年の理事長は、陣より始めよ、の文字通り、毎年、奨学生一人分の出捐をしていただければ、一時凌ぐことが出来るよう。多々ますます弁ずであるが、現実は無視し得ないことも考慮の上のことであるから、とんでもないことを申し上げたとは思っていない。気概をもって、高生の素晴らしい伝統にもっと光を。一燈照隔 妄言多謝

場違いであるが、朗報を一つ。私がPTAでお世話になつていた年度の卒業生(89期)竹内真君が、小説する新人賞に選ばれた。同窓こそってサポートしてやっていただきたい。

(日本学校歯科医会理事 51期)



雑感：蹟く石も縁の端

同窓会副会長 大木 紀元

朝に死に 夕に生るるならひ ただ水の泡にぞ似たりける。知不 生れ死ぬる人何方より来たりて 何方へか去る。また知不 飯の宿り 誰が為にか心を悩まし何によりてか目を喜ばしむる。その 主と柄と 無常を争ふさま いはば朝顔の露に異ならず——とは鴨長明(「方丈記」)だが、今日、平成十一年九月二十一日未明、筆者を日本ペンクラブに引き込んだ前会長長尾崎秀樹氏が逝った。春には同窓会の運営のいろはを説き、同窓会に引き込んだ岸芳彦先輩が逝った。顧みれば高同の門を出て四十年、いつも年長者に導かれ、起案から開設まで五年を要した日本シャンソン館(渋谷市)計画を唯一の例外として、望みはすべて三年以内に叶えていただいている極楽人生だが、人の生死だけはままならない。

人の一生は出会いと別れのリフレインと、頭では解しているものの、「逢いたい……」の言葉を遺して先に逝かれてしまふ人生の無常は如何ばかりしがたい(九月二十五日の母校同窓会常任理事会も栗本正彦氏の葬儀で十月九日に急遽延期)。荆妻豚児、兄孝行は日暮れて途遠しの感。そんな偶人に、若いときは故郷に帰るな

と叱咤激励してくれた師や先輩が、いまは故郷に手を貸せと、手にも身にも余る役を置かれて行く。幾つになっても鰥尾(きび)に付すが我が人生らしい。

ともあれ来年は西暦二〇〇〇年。母校は一足お先に上寿を迎えたが、今度は高崎市が市制百周年を迎える(新ロゴマークは筆者のデザイン)。年間を通して記念の祝賀行事が組まれているが、市民参加、高同生はいかにかわるべきか、京浜同窓会からも参加の声が上がり、群馬の文化遺産活性化のプロジェクトが同窓有志の肝いりで動きはじめました。手始めは高崎を舞台とした(ブルーノ・タウト)テレビ・スペシャル番組の制作・全国放映です。是非とも会員諸兄のご協力をいただきたく存じます。

▼お問い合わせは——

高崎：☎〇二七—三三二—四〇三二

山口正敏(58期)

東京：☎〇三—三四九—〇九四三

大木紀元(58期)

(群馬県人会連合会事務局長)



通信教育制の今、むかし

通信制教頭 井出 存祐

同窓会員の皆様には、多方面にわたるご活躍お慶び申し上げます。

私は昨年四月に赴任して二年目を迎えます。ここに会報を通して現在の通信教育課程を紹介させていただきます。

通信制教育は、昭和二十三年に文部省令により高等学校通信教育規定が定められ発足しました。「すべて国民はひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならない」と定めた教育基本法により、教育の機会均等の精神に基づくものです。

働きながら学ぶ勤労青少年を対象とし、勤労と修学に対しての正しい信念の確立を目指し、国民の教育水準の向上を希求した制度です。本校では当初国語科一科目のみ開講しました。その後、法改正をみて昭和三十年通信制課程のみで高校卒業資格を取得することが可能となりました。昭和三十四年三月に最初の一名が卒業して以来、本年三月(通41回)まで五〇五名の卒業生を数えます。これらの方々の手にしたのは、さまざまな困難を乗り越え、仕事のあい間を縫って「自」の戦いを克服して得た重みのある卒業証書であります。今年は大正生れの七十五歳の女性も、見事四年間で誉れある「証書」を手に入れました。

さて、昨今の入学生をみると、本年は一三三名(新入生四〇名30.3%、編入生四十九名37.1%、転入生一八名13.6%、一部科目生二十五名18.9%)であります。編入・転入生が増大しているのが現状です。前籍校で何らかの事情で退学し、或いは転校せざるを得ない生徒も、本校の通信制課程で文字どおり「心機一転」して、勉強の面白さ、楽しさを体得し「自」実現しているのが現状です。

今年も信州大、東京農工大ほか私大に現役合格者を輩出しております。

県内の定通教育の現況をみますと、定時制課程の設置校は十六校(県立十五、市立二)で生徒数一、四三八名、通信制課程は、本校と桐生女子、前橋清陵の三校で生徒数一、九〇五名です。

本校の生徒は六四〇名(男三八五、女二五五) 平均年齢二十八歳です。

定通の生徒数は逆転しました。いま新学習指導要領の実施をはじめ、高校教育改革が推進されています。全国一六万人を突破した通信教育生の実態を考えると「勤労青少年」とは言えない若者に、確固たる人権、価値観を持たせ、理論ではなく、感性を育む教育を展開させたいと思うのです。

旧制高中第四十回卒業の同窓会



植原 兵

大半の者が来年喜寿を迎える。あるときわれわれの同窓会にご招待した恩師の先生から、こう云われた。「四十回の諸君には際だって傑出したと云われる者はいないが、また、多くの者は個性的な生き方をしているようだ。そのためであろうかまとまりだけは良いようだ」と。

これは、正に四十回卒の特徴を言い当てて妙である。

昭和十六年三月に卒業した。この年は第二次世界大戦勃発の年であった。進学したとはいえ、徴兵猶予の恩典は廃止され、学業半ばで兵役に服し、戦場で明け暮れ、散華した友も多い。

終戦・復員・帰郷・戦後の混乱・食料難の窮乏時代をくぐり抜け、がむしゃらに生き抜いてきた。街角で偶然友に出会えば声をかけ合い、誰彼となく友の消息を聞いた。旧友ほどよいものはない。互いに裏表を知りつくし、信じあっていたからである。

幸い、同級生の中に母校で教鞭をとっていたS君が要となり、また、駅前通りに店を構えていたA君のところが連絡場所になっていたことが、友の情報を得るうえで極めて好都合であった。こうし

たことがあって、四十回卒のまとまりの良さがつくられていったのである。

しかし、どうしても消え去ることができない古傷が心の底にはあった。それは物故者追悼の機会がもてなかったことである。古希を機に物故者の慰霊祭を行ってはどうかとの役員の提案に皆が賛同した。

平成五年四月十日桜花の散りしきる中、竜広寺の本堂で慰霊祭は取り行われた。昭和十六年三月卒業生百四十八名、その内四十八名が鬼籍に入っていた。喜美候補主君導師の読経の中に物故者の名前が一人ひとり読みあげられていった。頭を垂れ、静かに聞き入る参加者は、今は亡き友のありし日の面影を追った。目を閉じれば、ありありと浮びあがってくる友がいた。生き長らえているわれらには、名状し難いものがこみあげてきて、わけもなく物故者に対し、今生きていることが申し訳ないような憂鬱な気持ちにさせられた。この日の参加者は四十七名であったが、この中には戦後はじめて会った友も多かった。そして、お互に慰霊祭ができて本当に良かった、これで胸のつかえがやっとなり下りたと漏らしていた。

奇しくもこの年は学徒出陣から数えて五十年目に当たっていた。参加者の多くの者の頭部には皆霜がおりていた。

さて、われらが同窓会は年一回会合を開くことを続けてきたが、出席者は年々減少の傾向をたどってきた。その理由は健康を気遣うてのことである。そこで本年（平成十一年）から夜の会を昼間に変更した。場所は交通便利な高崎駅周辺で探すことにした。狙いは多少健康に問題を抱えた人にも安心して出席してもらえることである。結果は好成績であった。出席会員より賛同が得られた。家族からも心配なく送り出せるという感想であった。今後はこの企画を継続し、更に新しい趣向をとり入れ、楽しい同窓会をいつまでも続けられることを願っている。

ちなみに、会員の現況を記すると、平成十一年七月現在、実会員数八十六名、うち連絡のつかない者九名、年会費納入済会員七十一名で九十二パーセントの実績である。

（元前橋地方裁判所中之条支部庶務課長 40期）

高高（高中）の思い出

八木 資親



昭和二十年（一九四五年）四月、二〇〇余名の友と旧制高崎中学校に入学した。第二次世界大戦、所謂大東東戦争の末期であった。

制服・制帽・脚絆着用を厳命され、登下校には必ず二列縦隊での行進を義務づけられていたので、前方に先輩・同輩の姿がないか痛く神経を使った。毎日の授業は、先ず校庭に前後左右一米間隔に整列、当時最も権威のある人物と思っていた軍人（配属将校と教えられた）が徐に登壇、「軍人勸諭集」を出せと命じると全校生が一斉に小冊子掲げ、前記軍人に続いて一小節ずつ朗読することから始った。この「勸諭集」は必ず携帯していなければならず、万が一忘れでもしうものなら先ず体罰は必至であった。当時既に連日十一時頃にはアメリカ軍の空襲があり、この場合即刻観音山に退避することになっていたもので、後には空襲が我々に実害を齎らさないことが解ってきた段階では、少し早目に弁当にありつけることと、山の中で暫しの自由が得られることから、不謹慎にも心待ちするようになっていた。辛かったのは教練で、一時間近くも唯々歩かされ、力が籠っていない、隊列が乱れたといったは体罰を受けるのは、十三・四才にとっては恐怖以外の何ものでもなかった。

しかしあの時代、敵国語として使用が禁じられていた英語を、堂々と教科にとり入れていたのは何故か、未だに理解できずにいる。

終戦日の昭和二十年八月十五日は、確か夏期休暇中であつたためか、当日の記憶が学校と直接結びつかないが、その後の変化としては、軍人が姿を消したと、かなりの頻度で体罰を加える傾向のあつた教師がすっかり沈黙を守ってしまったことがある。しかし、軍人育成のための学校や機関にいつていた多くの先輩が敗戦の傷を負って復学、一部ではあつたが先輩が不甲斐ないから祖国が敗戦の憂き目に遭つた。これから鍛え直すとの行動をとつたため暫く戦々競々の日々が続いたこともあつたが、その後校内の空気は急速に落ち着いていったように記憶している。

また戦後の混乱期で已むを得ないことかと思ふのだが、かなり頻繁に教師の転入出があつたので、再刊の校内紙上で当校には優秀な教師を引き止める力、或いは魅力がないのではとの主張を巡り波紋が広がったこともあつたが、このことなどは、正に自由にものが言えるようになった時代の、一つの先駆的な現象であつたと言えるのではなからうか。

昭和二十三年四月の学制改革施行に

よつて誕生した高崎高校への無試験進級（昭和二十四年）は、大変意義？のあつたこととの感慨を抱いているのは私一人ではないと確信している。

予て、六・六学制賛成論者としては、一つには十五・六才の肉体的に最も力をつけるのに必要な時期を、全く伸び伸びと過すことができた（よく遊ぶことができた）。二つには、特別の事情がない限り六年間同じ仲間と、同じ学舎で過ごすことができ、掛け替えない多くの友を得ることができたことを強調したい。

高高（高中）六年の歳月には、数えきれないほどの思い出があるが、最大の思い出としては、昭和二十六年一月三十日校舎の約半分を焼失するという痛恨事が挙げられる。間もなく卒業という時期そのショックは非常に大きなものであつたが、皆で煙り続ける校舎を見つめながら再起を誓い、真暗闇の校庭で歌つた「翠巒」、あの時の光景、歌声を思い出す時未だに胸に込み上げてくるものを禁じ得ない。

当初、憎越ながら恩師への私なりの思い出、エピソードについても、是非書き加えたいと計画したが、紙面の都合からいつの日にか機会が得られればと思ふ。

（元帝國石油専務取締役 50期）



長坂 資夫

“高崎高校時代の思い出”

息子のおかげで約三十年ぶりの母校に親しく足を運ぶ事になった。久しぶりの高高は思ったよりも整然としているし、静けさと清潔感が漂う素敵な場所になったと思う。校舎や建築物が変わっているためだろうか。そういえば、窓ガラスが割れているにもかかわらず妙に風通しの悪い武道館もないし、雑巾でうかつに床や壁を拭きでもしたら木片の棘が刺さりそうな建物は見当たらない。何より違っているのは生徒達のスタイルかもしれない。全員靴履きで、下駄をはいている生徒は皆無に等しいし、学生帽をかぶっている生徒は一人もない。布製のズックの肩掛け靴を使っている者も少ないし、上履きもビーチサンダルでない。等々、いくつもの点で我々の時代と比べて趣が違う。実際に生徒達一人一人が綺麗で格好いいのだ。そんな異なる表情を示す学校の状況ではあるが、しかし、そこには不思議な程に懐かしい、当時と同じ空気が漂い、同じ風が吹いていて、思わず深呼吸をしてみたい気持ちになる。胸一杯に大きく高高の空気を吸い込むと、自分の青春時代へタイムスリップできるような気がする。

我々七十七期は、昭和四十三年に入学。ベトナム反戦運動が激しくなり、「いちご白書」に代表される学生運動も世界的に過激になってきた年でもあった。東大闘争を中心に、全国の大学でも学園紛争と呼ばれる事件が相次ぎ、我々の上級生達は、真剣に国家や政治を討論し、批判して反発していた時期であった。勿論、我々の同期でも社会性に目覚め、知識を蓄え、勇気ある仲間達は学生集会やデモに参加して行った者も

あったようだ。当時の自分はいえ、臆病でかつ考えがあまりにも幼稚であった。そんな時代背景をよそに、ラジオの深夜放送が流行し、バックインミュージックという番組は、とうとう高高がほとんどレギュラー出演する状況になった。当然、学校でも話題の中心であり、高高・前高定期戦の時のラジオ番組への投稿合戦は全国的なブームとなった。修学旅行先でも母校の高高を説明するのに、福田・中曾根の元首相という二人の偉大なOBに一番をお願ひする必要があるほどであった。今年も例年通りに定期戦が行われ、私も久しぶりに戦いの状況を目の当たりにする機会を得た。高高が辛くも競り勝ったという結果であったが、見ている自分の中に「前高に負けてなるものか」という気持ちが強く沸いてきて、妙に夢中になってしまった。生徒達はむしろ冷静で、勝利に思わず握り拳を天に掲げたおじさんは、ちょっとしらけて、頭を掻きながら次のゲームコートへ移動する始末だった。確かに気がつくとも自分も学生時代には定期戦の時それ程盛り上がりて頑張った方ではなかったし、むしろ逆にスポーツ全般にある種の反発と偏見を感じていた気がする。観念的で独善的な個人主義に埋没していた。

一つの典型例が、選抜高校野球である。今年初めて群馬県から夏の甲子園大会優勝校がでた。桐生第一高校おめでとうで言えばこれが母校であったら最高だったのに……と思ひながら熱い応援を繰り返して、そこでプレーする選手の姿からすがすがしい感動をもらった。この素敵な感動を正面か

ら認めることができずに、反骨していた高校時代の自分が見えてくる。テレビで高校野球を観戦したり、新聞で記事を読んだりするのを忌み嫌ひ、世間で注目される高校野球の選手達に批判的で「こんなのはかりが青春では無いぞ!」とばかりに拒絶していたことを思い出す。汗と土でどろどろになって高校球児がみんな一つ一つの白球を追ひ、応援団も観客も一緒になって感動を共有する。そんなシーンが、当時の自分にとっては羨ましく思えた。そのひたむきさを評価され、勝敗にかかわらず努力が認められる彼ら高校球児に嫉妬していたようだ。彼らに比して、自分はといえば毎日ただ机に向かい参考書や問題集を開いては、空虚に過ぎゆく勉強時間に支配され、しかもその成果は大学受験の結果でしか評価され得ないと感じていた。いつから今のように穏やかな気持ちで高校野球を観戦できるようになったのか解らない。自分の息子が生まれた頃かもしれない。今はあまり色々な事にこだわりのようなものが無くなってきて心静かである。しかし、同時に物事に対する感受性や真剣さも失いかけていっているようである。高校時代のあの粋がった反発係数の高い頃が懐かしくも、恥ずかしくも思い出される。

二十世紀が終わりを告げ、新たな世紀を迎えようとも、わずかな瞬間に巡り会った我々にとつての高崎高校は未来永劫に輝き続けて行くのである。そして、新しい一瞬一瞬を見つめ続けて行くだろう二十一世紀の高高に心からのエールを送りたい。

(希望館病院理事長 70期)

論壇

「涙の行方」



剣持 宏

最近、特に涙もろくなったことを友人に話すと、「何をいってんだ、老いたって事だよ。涙腺の筋肉が衰えたのさ」と言って笑う。医学博士でもないのによく言うよ、と思ったが友人の言う事も分かるような気がする。

それでも、小生の場合は少し違うようだ。幼い頃、非常に泣き虫だった。いつも目尻のところが赤く爛れて、いかにも泣いていたというのが分かる顔をしていたさうである。だから、眼科には良く通ったのを覚えている。そんな状態であるから、目尻のすつきりする間もなかったようだ。(死んだお袋の話) 中学時代は、応援部、卓球部、合唱部と経

験し、野球に対しては、ズブの素人で、他の選手より技術的に優れたものを持ち合わせているとは思えない泣き虫の小生が、高崎高等学校の野球部に入ったのである。

高校2年の時、運命の暑い夏の日がやって来た。県大会一回戦、前橋の敷島球場で、桐生高にコールドゲームを記したのである。試合終了後のミーティングで、監督の第一声は「剣持、お前が主将だ。」であった。思わず自分の耳を疑った。一番野球の下手なキャプテンの誕生劇だ。高崎高校野球五十六代の主将である。

「甲子園」という三文字は、青春のシンボルになった。試合で活躍できないキャプテンが、リーグシップを発揮する事は、生易しいものではない。涙なみだの連続である。何とか、岡部信一郎副主将の助けで難局を乗り切った。

小生、高校生最後の夏の群馬県大会。高崎高校は、2回戦まで勝ち進み、対戦相手桐生工高に2対5にて敗戦。たった一度の打席に立った小生の打球は、サードフライとなってゲームセット。高崎市城南球場の白い熱砂を、涙がぼたぼたと黒々と染めていった。校歌が流れ、肩越しに「今日は、おもいきり泣け!」と監督の声が、灼熱の太陽の中に優しく聞こえたことを、昨日のように思い出した。高校生活における野球の最後であった。因みに、この年、甲子園行きの切符を手にしたのは桐生工高であった。

「甲子園」の夢は破れたが高校球児にとって、まさに憧れであり、夢の「甲子園」である。甲子園の土は、何人もの球児たちの純粋な熱き涙を見たり、情景に触れてきたことだろう。汗と涙に濡れたユニホーム、溢れ出る涙を拭いてもせず、眼は真つ青な空の彼方を、しっかりと見据えていた球児の姿を、優しく見つめてきたのだ。球児たちが何時までも、この涙をどこかに必ず持っていてくれると思ひながらである。

高校生活最後に、もう一つ大きな感激があった。故井上房一郎氏が、岡部信一郎副将と小生を北アルプスへと招待してくれたことである。新穂高温泉を経て槍ヶ岳から前穂高、奥穂高と縦走であった。はい松を抜け、雷鳥に出会い、大キレットを越えたあの充実感、

小生にとって何物にも変え難いものになった。家庭の事情から、大学進学を断念した小生は群馬銀行へ就職。どうしても辞められなかった美術への道が、銀行業務のかたわら継続できたのは、広報・企画・情報誌の発行、デザイン等のセッションに携わったからでもあった。

さて、紆余曲折はあったが、三十八年という長きにわたった銀行員生活に、終止符を打った。画家としての新しい出発となったのである。お袋が生きていたら「泣き虫で、俠骨無いお前が画家かい!」と言って呆れたことだろう。だが、涙もろいのも、小生のトレードマークだと思ふようになった。「人間というのは、涙が出るもんだ」と思ふようになったのである。

そこで、涙について考えてみた。悲しい時ばかり涙は出るものではない。嬉しい時でも涙は出る。また、涙は目からのみ出るのではない。涙に「目は口ほどに物を言う」や「目は心の鏡」等があるが、両方とも人の内面は、目を見れば良く分かると言っている。顔で笑って、心で泣いてなど、涙も心の奥底に流れているように思える。

最近、泣いている子供や、怒っている子供を見かけなくなった。そう言っても、刃物を持つて手当たり次第人を殺して歩く少年の事ではない。小生の言うのは、どうしても「僕はこれが欲しい」「悪い事は悪い」と主張する子供達が少なくなったということである。人と接する機会がなくなり、一人で行動する結果なのであるか、子供達が小利口になっってしまったような気がする。

小生の子供の頃は、一人ガキ大将が居て、弱い者をいじめた子を、常にリーグシップを発揮して、仕切っていたものだ。また、殴り合いの喧嘩をしても、殴られて傷をおった時の痛さを知っていたから、殺し合うまでの

喧嘩にはならないのである。ましてやナイフを持つて喧嘩をしようものなら、「卑怯者」のレッテルを張られてしまうから、適当な所で黙りがつく。

今は、気の弱い子を、多数で寄つてたかっでいじめる。先生にも言えず、家に帰っても両親にも言えない。胸につかえた物の捌け口は、「死」ということになる。

今、子供達に見せたい人生のルールみたいなものがあるとすれば、それは「涙」なのではないだろうか。この世に一度、生を受けた人間ならば、涙は出る筈なのである。

社会は、核家族を造り出した。孫たちは、お爺ちゃん、お婆ちゃんに可愛がられて、父、母と共に家をでた。可愛がってくれた人達の死に、涙した事があるのだろうか。兄弟喧嘩をして、殴られたり、引つ掻かれたりした経験があるのだろうか。

いつも側にいて、可愛がっていた犬や猫が死んだ時、何時までも泣いたこと。迎えに来るはずのお母さんが、なかなか来なくて泣いていたこと。友達のお母さんが亡くなったお葬式の日、友達の涙を見て泣けてしようがなかった日。運動会で、いつも一着の友が転んだ。今度は勝てると思ったが、体は途中で走るのを止めて、肩をかしていたこと。いろいろな涙の場面を想像してみた。小生の幼い時の思い出ではないものもあるが、人生は生きる事と、必ずある別れの涙が、生きる事に大切な涙であるような気がしてならない。

一九九九年もあと僅かで過ぎようとしている。この殺風景な現代社会で、次代の子供達に何とか「清廉な涙」を残していくことが出来ればと思っている。

そして幼い少年少女が、必ず素晴らしい未来を造り、置き忘れてしまった涙を、近い将来に取り戻す事が出来ると確信している。

(サロン・ド・パリ委員 画家 60回)

特

集

百年史編
人物史

「翠巒の群像」

こぼれ話

「白球に賭けた青春」取材ノートから

田端 積

三輪八郎(38期)さんは、高崎中学二年生で初登板してから卒業まで、一人でマウンドを死守し、卒業とともに大阪タイガース(阪神)に入団。昭和15年巨人をノーヒット・ノーランに抑える金文字塔をうち建てるなど、左のエースとして活躍したが、昭和18年のシーズン終了後応召。翌19年8月戦場に散って、二十三年に満たない生涯を終えた。この知られざるエースを追って取材ノートは膨らんだ。しかし、紙数の関係で多くを割愛せざるをえなかった。それらの中から少々……

○三輪投手の通算勝利数について

三輪投手のプロでの通算勝利数は、日本野球機構編纂の公式記録集「日本プロ野球記録大百科」では三十二勝となっているが、「白球に賭けた青春」では三十一勝とした。私が三十一勝を採った根拠について明らかにしておく。発足当初のプロ野球は組織として確立しておらず、記録も統一的に整理・保管されてはいなかったようだ。だから、公式記録集といえども、初期の記録は全幅の信頼をおけるものではない。一方、ベースボール・マガジン社からは「日本プロ野球記録大全集」という記録集が出版されていて、これには一リーグ時代に限ってはいないが、公式戦全試合のテーブルまで掲載されている。おそらく最初の公式記録員広瀬謙三氏が残した資料や新聞掲載の記録を集大成したものと思われ、資料集としての価値は極めて高い。これを子細に検証してみると、三輪投手は昭和14年度は一勝以外は、勝利にからんだ登板はしていない。ところが、「大百科」では二勝となっており、この差が通算勝利の差になっている。その「大百科」には各年度の個人データだけが載っているだけで、各試合のテーブルはなく検証は不可能である。このため私は検証可能な「大全集」に準拠して、三十一勝としたのである。これについて、日本野球機構のデータ処理を請け負っている会社に三十二勝の根拠について質したが、その後二年以上過ぎてても何の返答もないところを見ると、三十一勝を覆す資料を持ち合わせて

はいないと思われる。

○「弾丸ライナー」と三輪投手

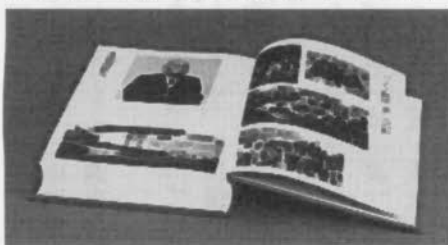
オールド・ファンにはお馴染みの「弾丸ライナー」の初出は、昭和15年11月18日付「都新聞」(後の東京新聞)の巨人―阪神戦を評した大和球士氏の一文である。そこには「10-2後、三輪の投げた低めの直球を川上が猛振すると、球は快音を立て、内野線を地上五尺位の低めで飛んでいくライナーになって、そのまま球は伸びに伸びて右中間の塀に四バウンドで達したのであった。日本球界広しと云えども、川上ただ一人しか打てない「弾丸ライナー」である。」とあり、この「弾丸ライナー」は、後には川上選手に限らず鋭い当たりの代名詞として定着していく。この「弾丸ライナー」の誕生に三輪選手が一枚噛んでいたことを知る人は少ない。なお、同氏の他の著書には「高崎商業出身の三輪」と記されており、まさか高崎中学からこんな凄い投手が輩出するとは考えてもいなかったようだ。

○戦前の選手の給料は?

今も昔も金の卵の奪い合いは凄まじく、当時も「白球に賭けた青春」にも記したとおりの騒ぎであった。待遇も各球団の競争合いともなれば、十七歳の少年に対し仰天するような条件が提示された。現在の契約金に相当する支度金と月給を調べてみると、三輪さんは支度金は不明で、月給は百円、昭和11年選抜優勝投手の青木正一氏(桐生中→タイガース)は千円、百二十円、昭和12・13年夏優勝投手の野口二郎氏(中京商→セネタース)は三千円、百四十円であり、当時の初任給(高等文官試験合格者七十五円、大卒銀行員七十円、小学校教員五十円)や小学校長の月給八十円と比べてみれば、当時もプロ野球選手の待遇が破格だったことが分かる。三千円ともなれば、土地付きのそこそこの家を買ってもお釣りがきたという。三輪さんも、「校長先生より高い月給を貰うのだから頑張れ」と、富田先生に励まされて大阪へ向かったという。

(54期 三輪八郎伝執筆)

「高崎高校百年史」



■本書の体裁

上巻 通年編 本文約800頁

下巻 人物史編「翠巒の群像」 本文約550頁

頒布価格 5,000円(送料込み)

■申込み方法

同封の振込用紙(加入者名=高崎高校百年史編纂委員会)にて代金を振り込んでお申込み下さい。維持会費納入用の振込用紙(加入者名=群馬県立高崎高校同窓会)とお間違いにならぬように御注意下さい。

現在頒布中

こんな同窓生を知っていますか？

『翠樹の群像』所収の次の人名から選んで下さい。

- 1 文化勳章を受章した歌人
- 2 「やわらかいボール」の伝説を生んだ世界的テニスプレーヤー
- 3 第七回直木賞受賞作家
- 4 東京海上社長として損保業界のリーダーとなった
- 5 お茶の水大学学長を務めた政治学者
- 6 英語教科書「ジャック アンド ベティ」の生みの親
- 7 井伏鱒二「本日休診」のモデルとなった人情医師
- 8 戦前戦後と通じ日比友好に邁進し、マニラ、モンテンルバ両市の名誉市民となった
- 9 全盛期の巨人軍をノーヒット・ノーランに抑えたタイガースのエース
- 10 超伝導研究の世界的権威者

- あ 大沢 清
い 田中徳次郎
う 橋 外男
え 三輪 八郎
お 萩原 恭平
か 清水 善造
き 土屋 文明
く 笛木 和雄
け 嶺山 正道
こ 南雲今朝雄

※正解は欄外にあります。

モデルは奥さんですね！

武井 民部

芸術家には、作品がすべてで、作品が自己のすべてを語るような寡黙を押し通した人たちがいるが、彫刻家・分部順治もその一人であった。分部は、生涯で一冊だけ、それも晩年になって作品集を自費で出しているが、写真の撮影者の氏名も出版社名もないのであった。これ以外に、自己の主張を語ったり、自己の芸術を述べたりという文章も皆無であった。

ただ、幸いにも彼の作品集には、巻末に、彼自身による年譜が、慎ましい活字で載せられていた。したがって、伝記をまとめるとなると、その年譜をもとにして彼を熟知する人たちから聞き取る以外にないわけであった。幸い夫人が娘夫婦と暮らしておられ、実弟の芳雄氏が浦和に、御健在なので、詳しく伺うことができ、また、高崎在住の同期の方々から、交流の度合いに応じた貴重な談話を載せて、何とかまとめることができた。やはり夫人と実弟のお話は、身近で暮らしていただけに迫真のものであり、夫や兄に対する懐かしさと同時に、身内を語る遠慮深さからのためらいが感じられ、不躰な質問が憚られ、つい聞きそびれてしまったものもあった。



不躰に夫人に尋ねられなかった一つである。この原稿を書くに当たり再訪して、像の面影から、モデルは、夫人に違いないと確信したのであった。あの記憶のなかり方もむべなるかなと思えたのであった。

(54期 分部順治執筆)

特に、戦中・戦後については苦しい生活を強いられ、それを打開した仕事で昭和二十六年の熊の平駅殉難慰霊の像と昭和二十七年の前橋駅前の戦災復興記念像であった。それまで——四十歳になるまで作品が売れなかったと彼自身が同期の友人に語っていた。夫人は、これらの仕事について特に感慨深いものがあるようで、その年月日まで明瞭に記憶をささっていた。

たまたま信越線横川、軽井沢間が廃止になり、熊の平殉難碑の存亡が気になっていたこともあり、探訪した。碓氷峠旧道七十六カーブから山上に旧熊の平駅の変電所が見えるのに線路は鉄条網で完全に囲われていて中に入ることができない。やむなく横川郵便局に戻り、局長に経路をお聞きしてようやく辿り着くことができた。立ち入れない場所ではない所へ移転すべきと考えての探訪であったが、真新しい花が供えられていた。改めて遺族の悲しみの深さを感じさせられ、この像は移せないのだと肝に銘じた次第であった。このミロのビーナスの「姿態」で裸身の幼子を抱く慰霊像は、戦後の貧しい中で、若く豊満な夫人と愛しく、幼い長男をモデルに制作したもののように感じられる。

その他「翠樹の群像」に収録されている人たち

福田 越夫 中曾根康弘 篠原誠一郎 大手 拓次 篠原 秀吉 岸 福治 佐々木四郎 岸 浩 住谷啓三郎 堀川 寛一 吉田榮治郎 井上房一郎 小島 軍造 小山長四郎 高岡 繁 橋本 富壽 山口 薫 狩野 近雄 宮下 秀冽 分部 順治 西嶋 重忠 田中 鎮雄 岡本 正己 丸茂 重貞 阿久澤亀夫 勝山 功 金 鶴泳 澤柳政太郎 岸 米造 猪狩梅三郎 岩澤 正作 村上 成之 内藤由己夫 田中 悦平

正解 1—き、2—か、3—う、4—い、5—け、6—お、7—こ、8—あ、9—え、10—く

同窓会だより

翠巒体育会の活動について

山口 正敏

昭和四十八年に翠巒体育会が創設されてから、はや二十有余年が過ぎました。初代会長は国峰善次郎氏(サッカー部50期)、二代会長は岩田武雄氏(バスケット部53期)、そして平成七年より私が会長(卓球部58期)を仰せつかつて現在にいたっております。

当会の主たる目的の一つは、現役の運動部の物心両面にわたる協力にあります。関東大会、総体、全国大会、甲子園、花園出場等が決まれば、その都度、各部OB会の皆さん共々バックアップ体制をとって、現役諸君の活躍しやすい環境を整えてゆければと考えております。又もう一つは、各部OB会の相互交流を積極的に図ることにより、親睦を深めてゆくことにあります。先輩後輩間の縦の交流は各々のOB会にお任せし、当会ではできるだけ総合的な横の交流を深め、さまざまな面での情報交換の機会を持ちながら、会員の資質の工場と会の発展を目指しております。

当会の組織は、現在陸上、卓球、軟式野球、バスケット、バレー、ラグビー、サッカー、水泳、柔道、剣道、野球、応援部の十二のOB会で構成されております。各部から二、三名の理事を選出してもらい理事会を構成し、必要に応じて年に三、五回開催しております。その上部組織として、各部から一名ずつ九名の副会長及び二名の会計監査を置き、重要事項については適宜必要に応じて会長、副会長会議を開き運営しております。

主な事業としては会員同志の情報交換、親睦交流及び資質の向上を図るべく、年に一回「翠巒体育」という開放を約四千部発行し、会員に配布してお

ります。

又年に一回、親睦交流を目的に各運動部の対抗戦を兼ねて、翠巒体育ゴルフコンペを開催しております。又ここ二、三年は積極的に地域参加の試みとして、高崎の春のイベントであるスプリングフェスティバルのフリーマーケットに「翠巒体育会」のブースを設け、各部から四〇、五〇点の品物を協力してもらい、約六〇〇点近くの品物を格安販売して僅かながらでも会の資金蓄積を図り、あわせて会員間の親睦交流を行っております。

又恒例の校内マラソン大会入賞者へ、会長賞の授与と学校側にご協力頂いて毎年、運動部への勧めを新入生に配布して、運動部への入部を呼びかけております。その要旨は、百年に及ぶ高運動部はスポーツ界、政界、経済界、学界等の各界各層に数多くの素晴らしい人材を輩出している。運動部は強健な身体はもとより、判断力、忍耐力、連帯感等これから先の人生に欠かせないものが得られることは間違いない。文武両道を両立させ、関東の雄、全国の雄たらんために第一歩を大きく踏み出し、汗と涙の感動を共有しあおう。そして現役諸君とOBが、スポーツを通じて良き人間関係をつくり、諸君が十分な活躍が出来るよう精神的、経済的、技術的支援を行いたいと考えている、というものです。

以上、ごく簡単に翠巒体育会について説明いたしましたが、同窓の皆様には、日頃運動部へのご支援、ご協力にたいして感謝申し上げますと共に、翠巒体育会に対してもご理解、ご協力の程、よろしくお願い致します。

(株)大陸不動産 代表取締役 58期)

高高バスケット部七十年略史

OB会会長 林 進一

平成十一年七月三日(土)、高崎ビューホテルにて高高バスケットボール部OB会総会及び創部七十年祝賀会を盛大に開催いたしました。歴代監督の清水貞保先生(30期)、鈴木武文先生(51期)、川島尚武先生(49期)、現顧問立見賢治先生を囲んで、往時の活躍や失敗談などの思い出を語り合い、楽しいひとときを過ごしました。また、この記念すべき年を祝福するのことにインターハイ出場を決めた現役の激励会ともなりました。その栄光の一端を少しご披露します。

残念ながら戦前の記録はなく、草創期の実績はつかみかねます。戦後の成績は、世代により多少の浮沈はありますが、概ねこの五十数年間一貫して高は群馬県高校バスケット界の強豪であつたと言つてよいと思います。

鈴木先生によりますと、県高校選手権(インハイ予選)が始まつた昭和二十三年から五年間は高高一期黄金時代だそうす。第一回大会より三年連続優勝を含む四度のインハイ出場という輝かしい戦績を収めています。戦中戦後約三十年間清水先生が顧問として、物心両面にわたり厳しくも暖かく生徒の世話を下され、黄金時代後も数年おきにインハイ出場を果たしております。いまだに先生を慕うOB・同窓生の多さには驚かされます。

清水先生の後を鈴木先生が二年ほど指導下され、短期間でインハイ出場を達成しました。

昭和四十八年に赴任された川島先生はあかぎ国体を控えて、連続出場を二

度成し遂げ、おそらくそれが第二期黄金時代となりましょう。

そして、平成三年には、昭和から平成にかけて高商で常勝を誇った立見先生を招聘し、現在第三期黄金時代樹立をめざしているところです。この数年常に優勝候補の一角に名を連ねておりましたが、ついに平成八年十四年ぶりに県高校選手権トップの座につき、平成十一年もまた優勝し、インハイ出場が続きました。

県高校選手権五十二年の歴史のうち、高商が十三回優勝し名門の名をほしいままにしております。資料を見ますと、意外なことに前高は一度もインハイに出ておりません。バスケットに関しては高商の圧倒的優越です。

OBも現在、物故者や住所のわからない方等を除いても、三百五十名弱を数えます。OB会では現役の支援・援助を中心に地道な活動を続けております。このたびのインハイ出場に際しましては、同窓会の皆さまより多大な賛助金を賜りましたことを、この紙面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

創部七十年を迎え、現役も頑張つてくれましたので、同窓生・OBを始め、父兄会や有縁の方のご協力を得て、OB会より遠征用バスを寄贈することができました。他部にも大いに利用していただき、運動部のさらなる活躍を期待したいと思ひます。

また、われらが母校の一層の繁栄発展をも祈念いたしております。

(高崎市市長公室企画調整課 72期)

同窓会だより

高崎高等学校吹奏楽部創部六〇周年記念演奏会によせて

・高崎高等学校吹奏楽部OB会会長 安藤 直典

日中戦争たけなわ昭和十五年（一九四〇）に皇紀二六〇〇年記念事業としてわが高崎中学校に滝川決男（四〇期・元群馬大医学部教授）を指揮者として吹奏楽部が誕生しました。私の入

学がその年で当時の先輩は四一期岸惇之輔、四二期では小山清一・斎藤栄二・三好研一・坂本立身・小島未樹、四三期では水原徳恒・橋本一明と豪華メンバーが楽器と取り組んでおりました。この発足当時一四名の小バンドから七〇名を越す部員を擁する現在を見ると今昔の感に堪えません。

戦局の進展は昭和一九年には高中生も軍需工場に動員され演奏活動は中断の止むなきに至りました。やがて終戦を迎え、戦後の混乱期に各校とも楽器は散逸し演奏活動不能の状態にあったが、当時在職された永長先生のご努力のおかげで楽器が揃えられ高井淳夫（四九期）らがメンバーとしていち早く演奏活動を再開しました。

再開された後の活発な演奏活動は多くのOBを送り出し緑陰音楽会から今年には四〇回になる定期演奏会に、吹奏楽コンクールでは関東大会連続出場の記録を残し当時の歴史に大きな足跡を残してきたのはご承知の通りです。

この間送り出されたOBは県下、中

央の音楽界に、また実業界に活躍しておりますが、故人となられた星野前OB会会長をはじめとしたOBの諸兄には深い哀悼の意をささげます。

今回の六〇周年演奏会はステージに乗った六〇名全員がOBだけで編成されました。これもわが高々ならではの壮舉で、ステージに裏方に総勢一〇〇名を越すOBが集いわがOB会の歴史と伝統のもと有意義に開催できました。六〇年に亘る各世代の参加OBが久闊を叙し時間も忘れて話の尽きないさまをみるとステージの成果とあわせ開催の意義は充分に尽くされた感が致しました。吹奏楽は年齢のハンデも無く同じステージで音を作れる所に楽しさがある事をつくづく感じた次第です。

またこの開催に当たっては横田同窓会長はじめ同窓多数のご後援をいただいた事も有り難いことでした。お陰で若干の剰余金が出来ましたので次回演奏会基金と母校吹奏楽部活動資金に使用させていただきます。

開催に当たり頂いた多数のOB、同窓の諸兄の御協力、御後援に厚く御礼申し上げ六〇周年コンサートの報告とさせていただきます。

（安藤（後）取締役会長 45期）

四六期信越線通学組

幹事 石澤 信久



往時は汽車通と言え
ば、横川・
松井田・磯
部・安中の
各駅から乗

降する、信越線を利用する通学生を指していた。私たちはその信越線で四年または五年間通い、時には勤労奉仕で農家に寝泊りし、またある時は学徒動員という名目で、共に工場で働いた同級生である。従って、仲間意識や連帯感是非常に強いものがある。

今から十数年前、松井田町在住の小林文男君が音頭を取ってこの会は誕生した。磯部で最初の会合を持ち、その後碓氷地区の数か所で開いたが、ここ数年は磯部で行っている。開催日は九月の第一土曜日と決まっている。これまでのところ何の問題も生じていないので、多分このまま進んで行くものと思われる。

戦中戦後の最も人数が多かった頃は、四十名近い同級生が通っていたが、卒業後から今日までに死亡した者が数名いる。生存している者は約三十名、その中で常に連絡を保っている者が二十五名、これが現在の会員と言え、出席者は、ほぼ三分の二というのが現状である。大半は高崎市を含めた地元に住んでいるが、京浜方面や遠くは

静岡から参加する者もいる。

私たちのこの会の特徴は、一口で言えば自由で何の制約もないことである。構成人員が比較的少数ということもあって、規約や会則といったものは一切ない。任期不定の幹事二名がいるが、これも回り持ちで、安中地区と松井田地区が交互に務め、適当なところで交替している。現在は原市の中島俊一君と私が幹事役を務めている。もっとも、運営が常にスムーズに行われている陰には、永年の世話係に甘んじている、前述の小林君の力が大きいことは否めない事実である。

一年に一度の集いを楽しみに、滅多に顔を合わせることもない連中が方々からやって来る。会えばたちまち昔の少年に戻り、酒を酌み交わしながらひたすらに喋る。歌を歌うこともなく、久闊を叙し、現況を語り、昔日の思い出に浸る。そして最後にクラス会の歌を歌って、再会を約してお開きになる。

私たちも古稀を迎えた。今年も体調不良で欠席、という返信が何通もあった。いつしか出席者が少なくなり、会が自然消滅という日が来ることも予想される。しかし、そういう事態になるまで、私たちは毎年集まって、共に過ごした高中時代を懐かしみ、旧交を温め合うことを続けるだろう。

（元高教諭 常任理事 46期）

同窓会だより

旧講堂の鬼瓦を保存

旧講堂は昭和十五年に完成し、二十六年の火災の際には類焼を免れ、戦前から残る唯一の建物として、同窓生にとって中学・高校時代の思い出の縁となっていました。しかし、五十年の風雨にさらされ老朽化が進んだため、創立百周年記念事業計画との関係もあり、平成五年取り壊しとなりました。この屋根を飾っていた鬼瓦は、幸いにも、取り壊し時に投棄されずに校地内に置かれていたので、翠樹会館の竣工を機に同会館内に保存しようということになりました。しかし、取り壊し以後屋外に放置されていたので汚れがひどく、そのままでは展示できる状態ではなかったので、公仕の矢島さんに洗浄、研磨してもらい、同会館二階に展示しました。大きいものは縦七センチ、横百八十センチもあり驚かされます。また、往時の講堂の全景写真（岩山猛（49期）氏撮影）も掲示してあります。学校へお立ち寄りの際は、是非ご覧下さい。



翠樹会館に展示された鬼瓦

バラ苗木の購入を援助

「バラの香けう学舎」の象徴的存在であった指月庭は、造園から四十年余も経過し、パーゴラやベンチが老朽化して危険になったため、翠樹会館建設工事に伴う整備事業で取り壊されました。既に現校舎建築後はバラ園の主体は校舎南側に移り、生徒が手入れをして大輪の花を咲かせておりましたので、指月庭のバラはなくなり、も高木のバラは健在でした。しかし、このバラも老木になり、花のつき悪くなったため、学校では新しい苗木を購入し、校舎南側に植え付けました。生徒の丹精込めた世話により、また美しいバラの花がキャンパスを飾ってくれることを期待しましょう。この購入には六十八期からの寄付金が充てられました。なお、指月庭は芝生になり、樺の見事な樹形がみられるようになり、校門を入ったところの景観が一新されました。



現在の指月庭

翠樹育英会財団法人設立十五周年を迎えて

財団法人翠樹育英会について出稿を求められた。善頭の副会長挨拶の中にも財団法人について触れているので如何かと思ったが、理事長の指示もあり、時あたかも、標記の十五周年にも当たるので、筆を執らせていただく。

翠樹育英会は、約十七年前（高初甲子園出場）のクラブ活動振興基金から、十五年前、同窓会の善意と熱意で誕生した。全国に冠たる奨学金給付事業と学校教育振興事業を二本柱とする公益法人であり、郷土の誇りともいえる存在である。

〇金利政策から、何度も繰り返すようで恐縮であるが、崖っぷちにたたされ、まさしく果敢の危機に瀕しているといっても過言ではない。是非とも、顕彰・褒賞・祝い事のおありの先輩諸氏におかれては、母校愛に燃え、郷土の子弟の健全育成のため、暖かい手を差し伸べていただくことを懇願したい。

亡くなられた土岐正先生の奥様のご遺志で文字通りの浄財をいただけたことは、誠に有難いことであつた。学校教育に長年携わってこられた林静男先生、鈴木信行先生にもご寄付をいただいた。教育の真髄を心得、実践されたお姿は、あたたかみ光背をしょっているかのようで美しい。私ごとで恐縮だが、翠樹会館壁面に素晴らしい魂を表現した大作をご寄贈して下さった上に二十一世紀を担う子供達にご寄付いただいた同期の島崎庸夫画伯にも感謝したい。その他、ご寄付いただいた方々にも心より厚く御礼申し上げる。

同窓会の皆様の一方ならぬご理解とご協力により、紆余曲折を経て十五周年を迎えることができた。今後共、ご支援下さるよう切望する次第である。

翠樹育英会十周年記念誌十三頁末に書いた作家早乙女勝元の言葉を、私の心の表現として再掲する。

・園を嘆くよりも一本のローソクをつけよう。
・小さな炎を消すな 薪をくべよう。

（財団法人翠樹育英会常務理事 田中 順 51期）

翠樹セミナーについて

従来各学期一回開催されていた「PTAセミナー」が、本年度より「翠樹セミナー」と改称され、同窓生を講師として年二回開催することになりました。第一回は六月十九日、元文化出版局書籍編集部長中野完二氏（54期）が、「太極拳の呼吸と陰陽」、第二回は十月十六日、群馬銀行頭取吉田泰三氏（51期）が、「これからの若者に期待すること」と題して講演しました。

なお、「翠樹セミナー」のほかに、中央大学経済学部教授高橋雅足氏（63期）が学年集会で講演しました。

卒業生の作品紹介 15



「粗忽拳銃」竹内 真

9月27日、東京都内で第12回小説すばる新人賞（集英社主催）の選考会が行われ、本校OB（89期）の竹内真氏の「粗忽拳銃（そこつけんじゅう）」が選ばれました。選考委員は、阿刀田高、五木寛之、井上ひさし、田辺聖子の四氏で、応募総数1,066編の中からの見事な受賞でした。竹内氏は、本校卒業後慶応大学に進学され、大学在学中の1995年には三田文学新人賞などを受賞された有望な新人です。竹内氏の今後の活躍にご期待ください。

平成11年度

- 勲五等瑞宝章
渡根木 八郎（79） 第37期
元榛名町収入役
- 茂木 元吉（70） 第46期
元科学技術庁航空宇宙技術研究所
管理部庶務課長
- 勲六等瑞宝章
松本 昭一（65） 第51期
元郵政事務官
- 法務大臣表彰
清塚 繁（67） 第51期
レストランサンガム社長
- 文部大臣表彰
上原 隆充（59） 第57期
県教育委員会事務局
学校教育部長

褒章・叙勲者紹介

会員名簿について

平成九年五月一日に、新しい同窓会会員名簿が刊行されました。御住所や勤務先の異動など、変更がございましたら、郵便でご連絡下さい。名簿に残部がありますので、申し込まれる方がございましたら、こちらにも郵便で行うようお願い申し上げます。

なお、「職業別同窓会名簿」等は、本同窓会とは一切関係ありませんので、ご承知おき下さい。本同窓会による会員名簿の次回刊行は平成十四年です。

宛先〒370-0861 高崎市八千代町二丁四一
高崎高校 同窓会名簿刊行委員会
定価＝四、五〇〇円（送料込み）

翠巒文庫BOOKBOOK BOOK

- | ●著者 | ●著者 |
|-------------------------|----------------------|
| 租税法の基礎理論 第三版 | 新井 隆一(46回) |
| 税法と税務 | |
| アメリカの歴史教科書 | 富所 隆治(53回) |
| 芝丘利夫抒情集作品集 | 芝丘 利夫(35回) 本名 柴岡 利夫 |
| 素粒子の世界(NHKライブラリー52) | 本間 三郎(53回) |
| 電気の謎をさぐる(岩波新書330) | 本間 三郎(53回)・山田 作衛 |
| 句集 萩の雨 | 原 ひろ志(56回) |
| 泉は潤れず | 白田 柳二ほか(47回) |
| 21世紀へふるさとの明かりを | 佐藤 幸雄(46回) |
| 男子高校生との対話 群馬県高崎高校での講演 | 中曾根康弘(35回) |
| ここがデル 先例・質疑応答集“不動産登記法I” | 熊 憲二(73回) |
| ALM システムの再構築 | 堤 康高(71回) |
| 市民福祉の社会学 | 安立 清史(75回) |
| ミャンマーが見えてくる | 田島 高志(53回) |
| ブルガリア駐在記 | |
| HTML4.0 正攻法 | 金井 明(68回)・牛田 啓太(95回) |
| 海を渡った幕末明治の上州人(みやま文庫) | 須藤 元夫ほか(43回) |
| 明治の陸軍軍隊員たち | 須藤 元夫(43回) |
| 韓国が死んでも日本に追いつけない18の理由 | 百瀬 格(56回) |
| わが人生論 | 須藤 宜ほか(29回) |
| 英語慣用表現演習 | 須藤 宜(29回) |
| ルクセンブルグの歴史 G.トラウシュ著 | 岩崎 允彦 訳(52回) |
| ひとりのひとを哀しむならば | 大沢 恒保(67回) |
| 山みち 汽車みち 線路みち | 石川 雅也(50回) |
| ウスバシロチョウ | 橘 不折(62回) 本名 太田節也 |
| 秀嶺様名案に | (51回) |

母校だより

●各部の活躍・活動

バスケット部

創部七十周年という節目の年に、三年ぶり十三回目のインターハイ出場を決めました。

限られた練習時間の中で訓練し続けた粘り強いディフェンス、日々のウェイトトレーニングにより鍛えられた体と精神力は、僕たちの生命線であり、強さの原動力でした。これらは、あらゆる試合において随所に見られ、僅差で接戦をものにしてきました。今回の県予戦も例外ではなく、高崎高校らしい「守りのバスケット」で勝利を収め、全順のインターハイの切符を手に入れました。

インターハイでは、自分たちのバスケットができず一回戦で敗れてしまいました。全国を肌で感じる事ができた経験となりました。後輩たちには、この経験を生かしさらに上を目指して頑張ってもらいたいと思います。

OBの方々には、日頃よりたくさんの御支援を頂きましてありがとうございます。今後とも御指導よろしく願っています。

小澤 朋克

ソフトテニス部

インターハイ、そして国体が終わる、ソフトテニスから離れ、大学入試へ向け



左から 3年 大崎雄三 2年 中川 歩 浦野先生

ての勉強が本格的になった今、部活がいかに高校生活を充実したものにしていくかということ、改めて感じています。中学入学時、おもしろそうだからと何気なく始めたソフトテニスも、恵まれた環境のもと、すばらしい先生方の指導のおかげで、インターハイさらには国体に出場できたことを大変うれしく思っています。

ソフトテニスを通じて、体力の向上はもちろん、人間的に成長し、そして何より、喜びや苦しみを共にした仲間との友情は、何にも代え難い、自分の一生の財産となると思います。

大崎 雄三

百人一首同好会

今年の六月二十日、高崎女子高校で、全国高校選手権大会県予選の団体戦が行われました。高崎高校は、全員一丸となって戦い、その結果、全順の優勝を果たしました。七月二十四日、滋賀県の近江神宮で行われた全国大会では、初出場ながら、決勝リーグには進めませんでした。予選リーグで一勝を上げることができました。翌日に行われた個人戦では、A・D級までである中のD級に出場し、接戦の試合をなんとか勝ち、優勝できました。

私は小学校三年生の時に、当時の担任の先生や母の影響で競技かるたを始めましたが、今回、同好会を結成して一年足らずで優勝でき、うれしく思っています。

しかし、現在、会員不足に悩んでいます。競技かるたはマイナー競技であるため、入りにくいのでしょうか、マイナー競技だからこそ一年で優勝できたのだと思います。会員さえ増えれば、団体二連覇も難しくはありません。ですから、百人一首に少しでも興味のある方は、入会していただきたいと思います。

小鮎 昭徳

SPORTS

運動部

- ①県総合体育大会
- ②関東大会
- ③インターハイ予選
- ④全国高校総体
- ⑤国体
- ⑥県新人大会
- ⑦その他の大会

空手部

- ①団体組手

ベスト8

弓道部

- ①団体戦 3位(関東大会出場)
- ②予選落ち

剣道部

- ①2回戦 高崎〇×洪工
- 3回戦 高崎×〇高商 ベスト16
- ③1回戦 高崎〇×太田
- 2回戦 高崎〇×勢多農
- 3回戦 高崎×〇前商 ベスト16

硬式野球部

- ⑦春季関東地区高校野球大会県予選
- 1回戦 高崎10-6 洪川工
- 2回戦 高崎1-6 桐生第一
- 〇全国高等学校野球選手権群馬大会
- 2回戦 高崎1-0 中之条

3 回戦 高崎 0-7 高崎商
○秋季関東地区高校野球大会県予選
1 回戦 高崎 7-4 渋川青翠
2 回戦 高崎 7-4 高崎商
3 回戦 高崎 2-3 桐生市商

サッカー部

① 1 回戦 高崎 5-0 高商
2 回戦 高崎 5-0 新島
3 回戦 高崎 5-0 富岡
4 回戦 高崎 0-1 前商 (延長)
③ 1 回戦 シード
2 回戦 高崎 2-0 太田東
3 回戦 高崎 4-0 明和県央
4 回戦 高崎 0-2 育英

⑦県高校サッカー選手権
(一二次予選)

1 回戦 シード
2 回戦 高崎 3-0 太田東
3 回戦 高崎 4-0 新島
(決勝トーナメント)
1 回戦 高崎 6-0 伊東
準々決勝 高崎 0-2 前商

山岳部

① ⑥集中登山大会 11/12、13 第10位

柔道部

① 団体戦 2 回戦
個人戦 格沢正己 ベスト 8
③ 団体戦 2 回戦
⑦群馬県少年強化選手選考会 (9月)

60 級 国原 大 優勝
66 級 格沢正己 準優勝
66 級 鈴木 達 ベスト 8
○学年別大会 (5月)
(2年の部)
無差別級 格沢正己 優勝
(1年の部)

水泳部

60 級 三輪洋介 3 位
73 級 鈴木 達 ベスト 8
90 級 藤井貴将 3 位

① (個人入賞)

2 百 m 個人メドレー 新井祐介 1 位
4 百 m 個人メドレー 新井祐介 2 位
2 百 m 自由形 黒田直次 3 位
4 百 m 自由形 黒田直次 3 位
2 百 m 自由形 笠原啓祐 8 位
百 m 平泳ぎ 柳澤佳希 8 位
(団体入賞)
4 百 m リレー 4 位
(新井・黒田・笠原・北村)
8 百 m リレー 2 位
(新井・黒田・笠原・北村)
4 百 m メドレーリレー 7 位
(黒田・北村・笠原・柳澤)
学校対抗では 3 位

③ (個人入賞)

2 百 m 個人メドレー 新井祐介 2 位
4 百 m 個人メドレー 新井祐介 1 位
2 百 m 自由形 黒田直次 2 位
4 百 m 自由形 黒田直次 2 位
百 m 背泳ぎ 北村翔平 5 位

百 m 平泳ぎ 柳澤佳希 8 位
(団体入賞)
4 百 m リレー 2 位
(新井・黒田・笠原・北村)
8 百 m リレー 1 位
(新井・黒田・笠原・北村)
4 百 m メドレーリレー 4 位
(黒田・北村・笠原・柳澤)

⑥ (個人入賞)

2 百 m 自由形 笠原啓祐 3 位
4 百 m 自由形 笠原啓祐 2 位
百 m 自由形 北村翔平 6 位
2 百 m 自由形 北村翔平 4 位
百 m 平泳ぎ 柳澤佳希 1 位
2 百 m 平泳ぎ 柳澤佳希 2 位
(団体入賞)
2 百 m リレー 4 位
(水野・笠原・江原・北村)
4 百 m リレー 3 位
(北村・潮・江原・柳澤)

⑦都市対抗水泳競技大会

4 百 m 個人メドレー 新井祐介 1 位
百 m 自由形 黒田直次 2 位

○群馬県選手権水泳競技大会

2 百 m 個人メドレー 新井祐介 1 位
4 百 m 個人メドレー 新井祐介 2 位
2 百 m 自由形 黒田直次 2 位

スキー部

① 回転競技 小林 25 位 関東大会出場
飯野 28 位
大回転競技 飯野 28 位

ソフトテニス部

① 団体戦 3 位
個人戦 中川・大崎組 3 位
② 団体戦 2 回戦
個人戦 中川・大崎組 3 回戦
岩佐・山口組 2 回戦

③ 団体戦 3 位
個人戦 中川・大崎組 5 位
④ 個人戦 中川・大崎組 1 回戦
⑤ 大崎 1 回戦
⑥ 団体戦 2 位
個人戦 岩佐・小佐野組 2 位
中川・山口組 ベスト 8
木村・吉田組 ベスト 8

卓球部

① 1 回戦 安中高校に勝つ
2 回戦 桐生工業高校に勝つ
3 回戦 館林高校に敗れる

テニス部

① 団体戦 ベスト 8
個人戦 ダブルス
酒井隼樹・新井洋組 優勝
シングルス
酒井隼樹 第 3 位
ダブルス
酒井・新井組 第 3 位
シングルス
酒井・新井組 ベスト 8

⑥団体戦
酒井集樹
ベスト8
ベスト8

軟式野球部

①1回戦 高崎1-4太田
⑥1回戦 高崎3-2館林
2回戦 高崎4-5X前工(延長10回)
⑦全国選手権大会群馬県予選(7月)
1回戦 高崎0-10前工

バスケットボール部

①優勝
②Aブロック 2回戦進出 ベスト8
③優勝
④1回戦
⑥平成12年1月に実施

バレーボール部

①ベスト8
③ベスト8
⑦西毛地区大会 準優勝

ラグビー部

①3位
③5位

陸上部

①100m 石野貴裕 4位
800m 中山陽右 5位
千500m 中山陽右 4位
400mH 北嶋将志 3位
棒高跳 稲垣圭吾 3位

走幅跳 石野貴裕 2位
総合21点

②走幅跳 石野貴裕 2位
④走幅跳 石野貴裕 決勝進出ならず

⑥800m 中山陽右 4位
400mH 深澤秀一 6位

3000mSC 中山陽右 1位
5000m競歩 相川雅広 4位

棒高跳 唐澤 毅 5位
稲垣圭吾 1位
高田武蔵 4位

⑦第52回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会
混成・長距離・女子400mH・競歩
競技大会

5000m競歩 土屋智史 25位

⑧県選手権大会
800m 中山陽右 6位
5000m競歩 土屋智史 3位

棒高跳 塚本正幸 6位
梅山曉生 2位
走幅跳 石野貴裕 2位

以上6位入賞者は関東選手権大会へ出場
⑧第31回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

3000mSC 中山陽右 5位
棒高跳 稲垣圭吾 5位

①1回戦 高崎0-2前商
③1回戦 高崎3-1関学附
2回戦 高崎0-3前橋東

⑧第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 飯野順人・清水基彦

⑧第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 増田 剛・清水基彦・松本悠一

⑧第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 増田 剛・清水基彦・松本悠一

⑧第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 増田 剛・清水基彦・松本悠一

⑧第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 増田 剛・清水基彦・松本悠一

CULTURE

学芸部



吹奏楽部

○全日本吹奏楽コンクール県大会
A組 銀賞

マンドリン部

○平成10年度群馬県マンドリンフェスティバル 優良賞

百人一首同好会

○全国(高等学校文化連盟)高校総合文化祭(小倉百人一首)かるた部門・群馬県大会
小鮎昭徳
県代表として8月の米沢大会へ出場

○全国高校小倉百人一首かるた選手権大会県予選
優勝(小鮎昭徳・星野大輔・佐藤万基人・井上剛志・中島拓也)
7月の近江神宮大会学校対抗へ

○群馬県高校総合文化祭
小倉百人一首かるた大会
小鮎昭徳 4位
星野大輔 6位
井上剛志 11位

11月の関東大会へ

将棋部

○第23回全国高校総合文化祭
個人戦 増田 剛
団体戦 飯野順人・清水基彦

新聞部

○群馬県高校新聞コンクール
上毛新聞社長賞受賞
○世界エイズデー
高崎市教育委員会配布パンフ作成

第五十三回定期戦

皆で楽しむ定期戦。これが私の指針だった。私達の世代は盛り上がり方とメリハリのつけ方を知らない者が多い。私は一年から実行委員に入り、それらを学んだ。しかし、実行委員会だけでは狭い。学校全体に浸透させなければならぬ。

第五十三回定期戦は近年まれに見る盛り上がりだったと思う。勝敗を決める部対抗ソフトテニスにおける、応援の数と盛り上がり方は凄かった。一打

ごとに一喜一憂。私はあの瞬間に定期戦の意義を見出した。こんな世の中において、こんな人間味あふれる状況を皆で創り出したことをとても幸せに思った。

私は今年の定期戦を通して、今後の定期戦の進むべき道が見えたように思う。うまく表現できないが、後輩たちには伝えたつもりだ。広い視野で考え、行動し、反省し、定期戦が全高生、前高生にとつて素晴らしいものになること

を願う。結果的に勝ったが、それ以上に楽しかった定期戦だった。

(第五十三回高前定期戦 実行委員長 今井 一穂)

第53回高前定期戦 得点表

種別	種目	高前	高前
陸上	陸上	6	3
バスケットボール	バスケットボール	6	4
バレーボール	バレーボール	0	4
ソフトテニス	ソフトテニス	6	6
卓球	卓球	0	7
卓球	卓球	0	6
網球	網球	0	9
網球	網球	0	9
ソフトボール	ソフトボール	0	0
水泳	水泳	0	0
ラグビー	ラグビー	0	6
サッカー	サッカー	6	0
柔道	柔道	0	6
剣道	剣道	0	6
軟式野球	軟式野球	6	0
硬式野球	硬式野球	6	0
弓道	弓道	0	6
空手	空手	0	6
テニス	テニス	0	6
小計	小計	48	36
合計	合計	90	84

進路状況 (全日制) 内は現役

大学	年次	9年	10年	11年	大学	年次	9年	10年	11年
北大		6(3)	8(5)	11(8)	慶應大		75(56)	67(55)	61(44)
東北大		30(28)	25(22)	15(10)	早稲田大		63(44)	68(57)	62(37)
筑波大		5(4)	2(2)	3(3)	中央大		56(37)	42(34)	51(41)
千葉大		18(17)	9(9)	13(10)	明治大		53(38)	40(33)	65(50)
群馬大		34(31)	28(25)	30(28)	上智大		12(9)	11(6)	4(1)
(医)		8(8)	8(6)	4(3)	立教大		8(5)	12(8)	12(12)
埼玉大		8(8)	6(5)	9(8)	学習院大		14(8)	4(4)	16(8)
東京大		20(15)	15(12)	14(8)	青山学院大		28(26)	24(22)	23(18)
一橋大		8(7)	5(5)	3(3)	法政大		42(32)	26(19)	35(24)
東工大		6(4)	6(5)	10(9)	日本大		87(70)	61(54)	43(35)
横国大		11(10)	6(6)	7(2)	東京理科大		99(77)	101(86)	105(84)
新潟大		5(4)	21(20)	22(20)	芝浦工業大		16(14)	21(21)	25(22)
金沢大		8(6)	4(4)	5(5)	同志社大		22(20)	6(1)	8(5)
信州大		3(3)	2(2)	3(3)	立命館大		52(46)	22(15)	23(16)
名古屋大		2(2)	2(1)	1(1)	高経大		19(16)	9(8)	7(6)
京都大		5(3)	1(0)	0(0)					

種別合計 (全日制) 内は現役

	9年	10年	11年
A 国立	191(163)	164(139)	171(142)
B 公立	28(20)	13(12)	19(15)
C 私立	799(603)	654(513)	743(552)
A + B + C	1,018(786)	831(664)	933(709)
卒業生数	375	357	358
現役進学者数	275	240	253
現役合格率 (合格者数 / 受験者数) × 100	86.2%	84.7%	83.9%

人事異動

(平成11年度)

退職者

井本 嘉宣 教頭
荒木 勉 事務長

転任者

船戸 秀道 教諭 → 桐生女子高校
斎藤 和義 教諭 → 館林商業工業高校
矢島 哲雄 教諭 → 高崎東高校
栗原 大介 教諭 → 中央高校
田口 哲男 教諭 → 県教委
戸塚 英之 教諭 → 桐生高校
福田 享 教諭 → 富岡高校
茂木 郁夫 事務 → 藤岡高校
大森 友江 司書 → 渋川青翠高校

新任者

福田 賢吾 教頭 → 前橋東高校
御供 洋 事務部長 → 前橋商業高校
三木 保江 教諭 (家庭) → 前橋女子高校
関根 正弘 教諭 (数学) → 中央高校
柴田 栄 教諭 (理科) → 太田高校
毒島 健一 教諭 (理科) → 万場高校
萩原 弘和 教諭 (芸術) → 高崎女子高校
宮川 淳吾 教諭 (社会) → 館林高校
工藤 正宏 教諭 (英語) → 富岡高校
山田 恵子 司書主事 → 県立図書館
横川 浩之 事務主事 → 新採用

平成10年度 高高同窓会 経常決算報告

平成10年度 経常会計			
収入の部 平成10年1月1日～平成10年度12月31日			
費目	平成10年度予算	平成10年度実収入	備考
前年度からの繰越金	146,136	146,136	
入会金	2,800,000	2,949,000	全日制321人、通信制30人
維持会費	7,000,000	5,873,500	2,187人
利息	2,864	2,473	
雑収入	15,000	353,000	100周年記念ビデオ写真集代他
合計	9,964,000	9,324,109	
支出の部			
費目	平成10年度予算	平成10年度実支出	備考
会議費	1,100,000	769,040	平成10年度総会補助30万円也
祝賀費	500,000	528,476	ネクタイン代・卒業証書代等
饗別費	300,000	330,000	平成10年転退職員へ
慶弔費	150,000	228,775	葬儀花輪代等
通信印刷費	500,000	199,190	維持会費納入礼状、兼書代等
旅費	100,000	76,000	京浜同窓会出席者等
会報発送費	1,900,000	1,825,028	
会報作成費	1,700,000	1,638,315	
事務費	600,000	678,692	人件費、事務用品代等
同窓会長賞費	150,000	104,002	文鎮代
補助費	600,000	600,000	図書館30万、平野体育会30万
特別会計積立	1,500,000	1,500,000	
雑費	500,000	66,500	名簿代返金等
予備費	364,000	0	
合計	9,964,000	8,544,018	

平成11年度 同窓会経常会計予算				
収入の部 平成11年1月1日～平成11年度12月31日				
費目	平成11年度予算	平成10年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	780,091	146,136	633,955	
入会金	2,800,000	2,800,000	0	
維持会費	7,000,000	7,000,000	0	
利息	2,909	2,864	45	
雑収入	15,000	15,000	0	
合計	10,598,000	9,964,000	634,000	
支出の部				
費目	平成11年度予算	平成10年度予算	増△減	備考
会議費	1,000,000	1,100,000	△100,000	新年総会準備金他
祝賀費	550,000	500,000	50,000	
饗別費	300,000	300,000	0	
慶弔費	200,000	150,000	50,000	
通信印刷費	500,000	500,000	0	
旅費	100,000	100,000	0	
会報発送費	2,000,000	1,900,000	100,000	
会報作成費	1,800,000	1,700,000	100,000	
事務費	700,000	600,000	100,000	
同窓会長賞費	150,000	150,000	0	
補助費	600,000	600,000	0	平野体育会・図書館
特別会計積立	1,500,000	1,500,000	0	
雑費	500,000	500,000	0	
予備費	698,000	364,000	334,000	
合計	10,598,000	9,964,000	634,000	

差引残高 780,091円

次年度への繰り越し 780,091円

経常会計について上記のとおり報告いたします。

群馬県立高崎高等学校同窓会

会計 荒木 勉 飯野良二 三浦昭久

監査の結果、上記報告に誤りのないことを認めます。

平成11年1月16日

群馬県立高崎高等学校同窓会

監査 石井敬之助 安藤震太郎

維持会費の納入について

■維持会費納入状況の推移



左のグラフでお分かりのように、平成十一年度維持会費納入実績が、平成十年度実績を上回りました。会員の皆さまのご協力に感謝いたします。しかし、特別会計積立金は未だ不測の支出に対応できるほど十分ではありません。また、平成十二年度からは事務局維持費の支出が大幅に増える予定です。このような事情をご理解いただき、是非会費納入にご協力お願い申し上げます。

納入については、同封の振込用紙（加入者名「群馬県立高崎高等学校同窓会」）をお使いください。重ねてよろしくお願い申し上げます。

編集後記

同窓の皆様の多大なる御協力をいただき、会報第33号が発刊できました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せ下さいまして、まことにありがとうございます。（本部幹事会）

第98回高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

明年の新年総会は、私達69期が担当させていただきます。いたゞくことになりました。

明年は二十世紀最後の年であるとともに二〇〇〇年というミレニアムという記念すべき年でもあります。それにふさわしい、にぎやかで、楽しい新年総会になりますよう諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備をすすめております。

懇親会は懐かしき友と親しく語り合い、肩を組み声高らかに校歌や卒業、クラス会の歌等を歌い、楽しい一時を過ごしていただきます。

懇親会は懐かしき友と親しく語り合い、肩を組み声高らかに校歌や卒業、クラス会の歌等を歌い、楽しい一時を過ごしていただきます。

ただよう工夫をこらしております。

当日は是非とも同期の方々、先輩後輩の方々等お問い合わせのうえ、たくさんの方のご出席を当番期一同心よりお待ちしております。

期日 平成十二年一月二十二日（土）
時間 午後三時より
場所 高崎ビューホテル
会費 五千元
（当番期69期代表 阿久澤 茂）